中学生の「税についての作文」優秀作品
『関東信越国税局長賞』

命を救う税

新潟県立　津南中等教育学校　３年
小　林　莉　音

私は、税金と聞くと初めに思い浮かぶものは、消費税だ。十才のとき、消費税が八パーセントから十パーセントになり、負担が増えた。そのときから私の中の税への考えはよくないものだった。

しかし、インターネットなどで調べてみたところ、医療や教育、公共施設などのみぢかな場所で、役に立っていることを知った。医療と聞いて私の小さいころを思い出した。

私は生まれた時、千三百六十二グラムの低出生体重児だった為、生まれてすぐに新生児集中治療室であるＮＩＣＵに入り、管理や治療を受けた。ＮＩＣＵの保育器の中で私は五十日間、保育器を出てから三十日間、合わせて八十日間をＮＩＣＵで過ごした。ＮＩＣＵの保育器の中での治療の費用は一日十万円ほどかかると言われている。だが、未熟児医療制度という制度のおかげで数万円の費用だけで済ませることができた。

それから小学校入学時、私は心臓検査で先天性の心臓病が見つかり、五年生の時に新潟大学病院に入院し心臓のカテーテル治療を無事に受けることができた。この時も、育成医療という制度により、高度の治療を少額の費用の支払いで済ますことができた。

この話を母から聞いた時、私はたくさんの税金によって助けられ、今生きていられるのだと実感した。もしこれらの医療制度が無かったら、私の家族は金銭的にどれだけ大変な思いをしただろうかと思う。

これらの医療制度以外にも、十日町市では０才から十八才までの子どもの保険診療は、一回につき五百三十円、薬剤費用や入院費が無料の子供医療費助成があったり、赤ちゃんの健康診断や、数種類の予防接種が無料で受ける事もできる。

すべての人が安心して子供を産み、育てることができる社会の為に必要なのが税金だという事を調べたり、話を聞いたりして理解することができた。そして私の税に対する考えも改めることができた。

私の心臓の病気は、今は年一回の検診を受けているが今年の検査の時、先生から、「もう少しで完治です。」と言われてすごく安心した。

私は、今までの入院や治療をしてきた経験から、将来は医療関係の職業に就きたいと考えている。なぜなら、赤ちゃんの頃からいろいろな人々にお世話になり、やさしく丁寧に対応して頂いた事が忘れられないからである。私も病気などで大変な思いをしている人達の力に少しでもなれる様な仕事をしたいと思っている。

これから社会に出て、たくさんの税金を納める事があるが、自分と同じ境遇の人の助けになる為に、しっかり国民の義務を果たそうと思った。